

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

木屋瀬 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

| | |
|-----|-----------------|
| 国語A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 国語B | 全国平均正答率を上回っている。 |
| 算数A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 算数B | 全国平均正答率を下回っている。 |

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

| | | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|--------|----|------|------|------|------|
| 平成24年度 | 本市 | 79.4 | 52.2 | 70.4 | 56.1 |
| | 全国 | 81.6 | 55.6 | 73.3 | 58.9 |
| 平成25年度 | 本市 | 60.3 | 46.3 | 74.6 | 56.5 |
| | 全国 | 62.7 | 49.4 | 77.2 | 58.4 |
| 平成26年度 | 本市 | 69.1 | 52.6 | 76.2 | 55.4 |
| | 全国 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 |

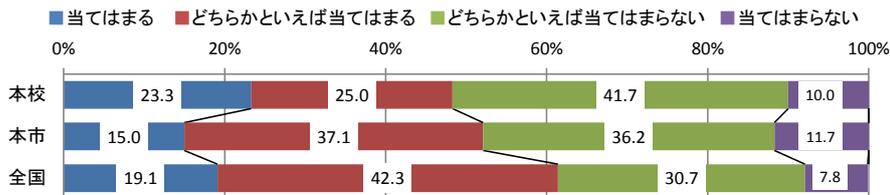
② 学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率をやや下回っているが、ほぼ同等である。話す・聞く力を問う問題に関しては、全国平均正答率を上回っていた。 ・書く力を問う問題に課題がある。書くことを習慣化するだけでなく、適切な情景描写や表現ができるようにする必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・話し合いの場面で、話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題は、全国平均正答率を上回り、高い正答率であった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・故事成語の意味と使い方を理解する問題は、正答率が低かった。 |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を、わずかだが上回ることができた。記述式や短答式などに対しても無回答率が低く、意欲的に取り組むことができたようになった。 ・読む力を問う問題に課題がある。特に、表現の工夫を捉える問題は、正答率が低い。 |
| | よくできた問題 | ・討論会の場面で、目的に応じて話し合いの観点を整理したり質問の意図を捉えたりする問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・相手の発言に対して自分の立場を明確にして、質問や意見を述べる記述式の問題の正答率が低かった。 |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていたが、昨年度より正答率は高く、全国平均正答率と、ほぼ同等である。 ・基本的な計算の正答率は大変高く、基礎基本の定着が見られる。 |
| | よくできた問題 | ・減法と乗法の混合した整数の計算をする問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・コンパスを使った平行四辺形のかき方について、作図に用いられている図形の約束や性質を理解する問題の正答率が低かった。 |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、全国平均正答率との差が約1ポイント広がっているが、ほぼ同等である。 ・計算方法や求め方を記述する問題の無回答率が高かった。 |
| | よくできた問題 | ・示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する問題の正答率が、全国平均正答率に比べ高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・示された情報をもとに必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する問題は正答率が低かった。 |

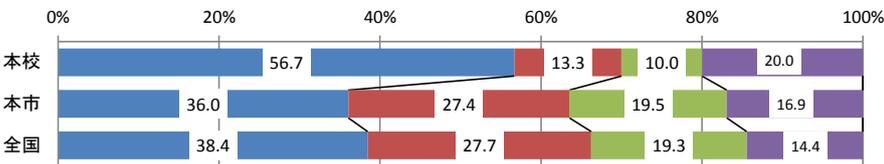
③ 学校での学習状況に関する調査結果

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

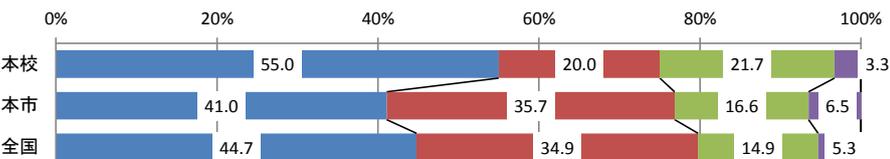
| |
|---|
| 55 |
| 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか |



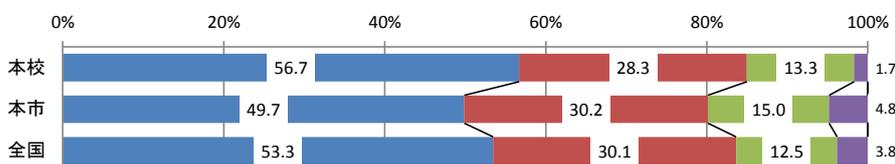
| |
|-------------|
| 62 |
| 算数の勉強は好きですか |



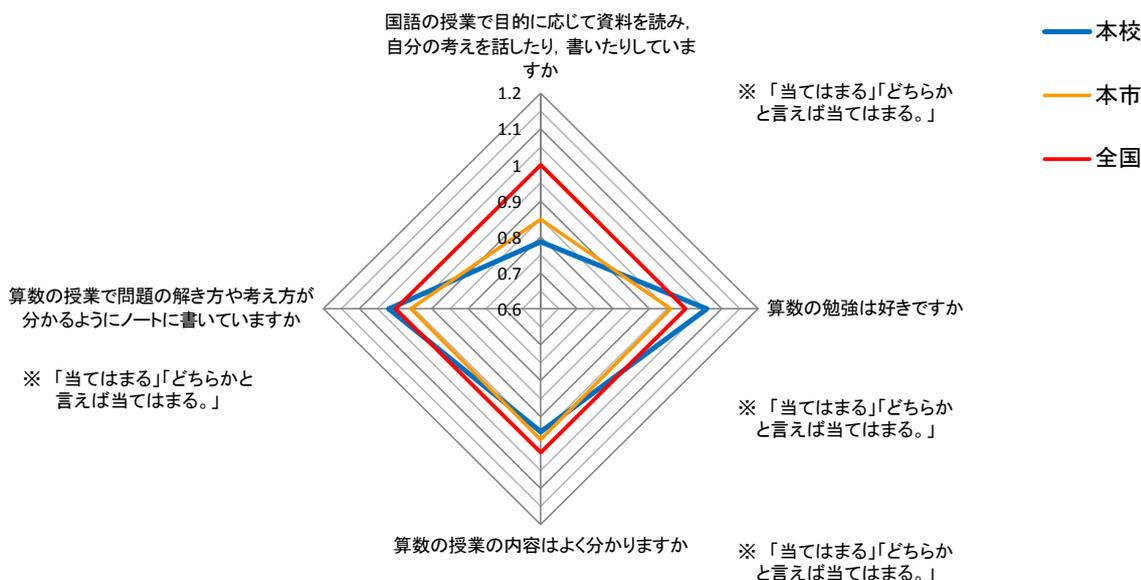
| |
|-------------------|
| 64 |
| 算数の授業の内容はよく分かりますか |



| |
|------------------------------------|
| 71 |
| 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか |



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・国語の授業で、自分の考えを話したり書いたりしていると答えている児童が半数に到っていない。今後は、自分の考えを発表する機会を増やしたり、学習して分かったことや考えたことを書く機会を増やしたりする授業を行っていく。

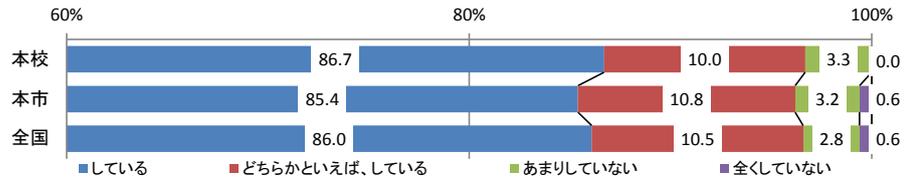
・算数の勉強が好きという児童は、全国平均を上回っている。しかし、算数の授業が分かるという児童は、「どちらかといえば当てはまる」を含めると、若干下回っている。このことは重要な課題であるが、24年度以前に比べれば、かなり改善されている。全校で算数科学習の学力向上に取り組んでいる成果が見られる結果となっている。

・算数科では、問題の解き方や考え方を書ける児童が年々増加し、全国平均を上回っている。今後も、考え方を書く時間を設定し、さらにその考えをみんなに発表する話合いの時間を充実させていく必要がある。そして、この力を他の教科にも広げていく必要がある。

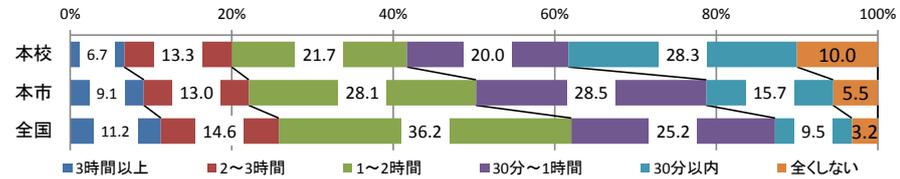
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

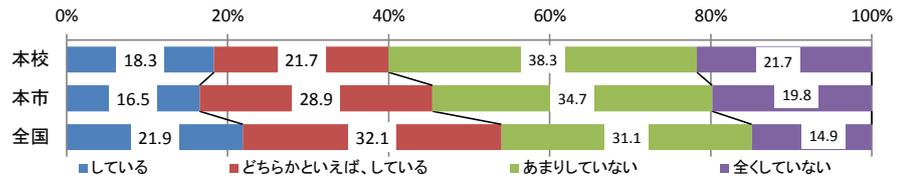
22
家で、学校の宿題をしていますか



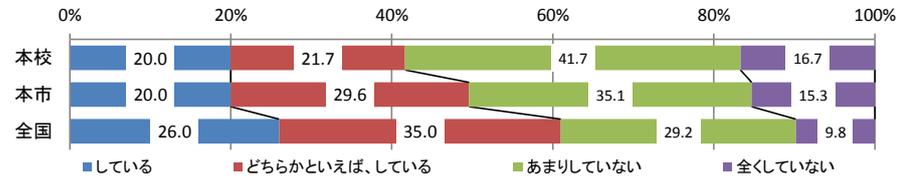
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



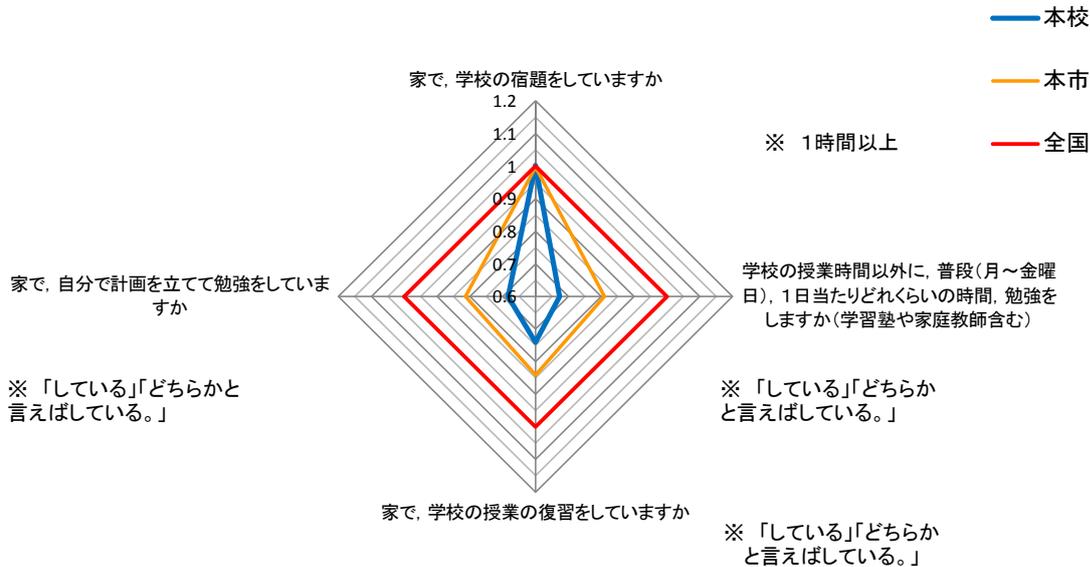
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



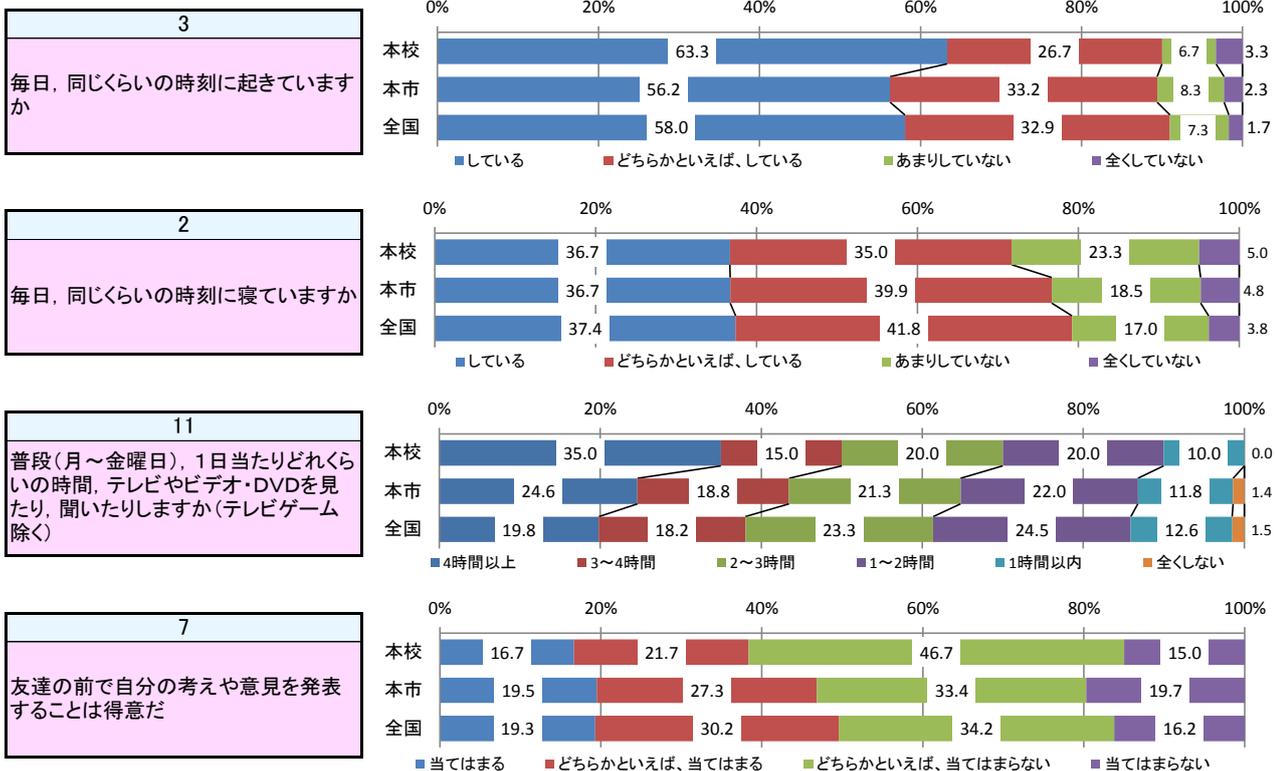
② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



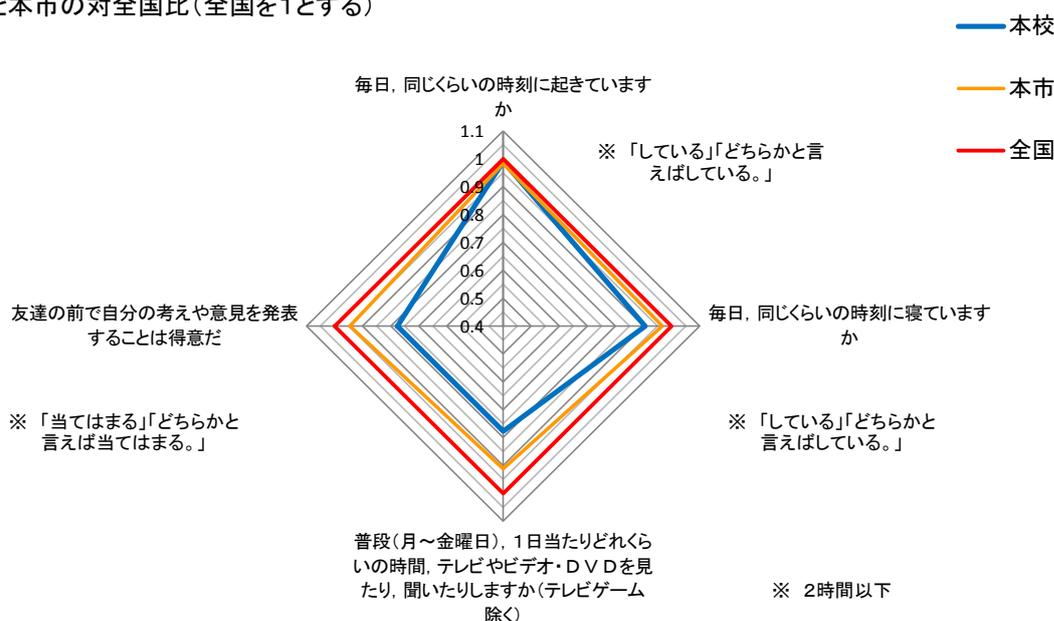
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家で宿題をしている児童の割合は、年々増加しており、「宿題を必ずする。」という習慣は定着している。
 ・家庭学習をしている児童の割合は、年々増加している。しかし、一人当たりの家庭学習の時間は、全国平均を下回っている。また、授業の復習をしている児童の割合は、全国を下回っている。
 ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合も、全国と比較すると20ポイント近く差がある状況である。(学年+1)×10分という家庭学習の時間を目標に、家庭学習チャレンジハンドブックを有効に活用、点検するなどして家庭学習の具体的な取り組み方や計画の立て方などを指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合は、年々増加しており、全国の割合を上回っている。「早起し、遅刻せずに登校する。」という意識は、児童や保護者に定着してきている。しかし、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合は、昨年度に比べ低くなっており、若干就寝時刻が遅いことが課題である。

・テレビ等の接触時間は、4時間以上の児童の割合が最も高い。7割の児童が帰宅後2時間以上テレビ等を見たり、聞いたりしている。このことが、家庭学習の時間を確保する上で課題となっている。

・友達の前で自分の考えや意見を発表することに抵抗を感じている児童の割合が高い。自分の考えを発表する機会を増やし、間違っても大丈夫という安心感を児童にもたせる支持的な学級風土づくりをする必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 確かな学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習(読み、書き、計算を中心に曜日を決めて)やチャレンジタイム(5校時開始前の10分間の帯取り)を設定し、全校一斉に実施。
 - ・算数科における各学年の重要単元については、チャレンジタイムにおいて集中的に指導するよう、国庫少人数、児童支援加配、教務、教頭、校長等を動員し、基礎・基本の定着を図る。
- ◎ ティームティーチングによる2人体制で、きめ細かな指導
 - ・算数科は、全学級、全時間チームティーチングで指導に当たる。
- ◎ 過去問題やアシストシートの活用
 - ・アシストシートや過去問題を印刷し、冬休みや春休みの宿題とする。
- ◎ 学習ルール(授業5則)の定着
 - ・木屋瀬中学校区小中一貫連携教育で作成した「授業5則」を学級に掲示し、児童に意識させることで学習ルールの定着を図る。
- 「話す」ことの習慣化
 - ・学習の中で児童の考えを出し合う「話し合い」の時間を設け、思ったことや考えたことを発表するようにする。
 - ・朝の会や帰りの会でスピーチをする時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 家庭学習に取り組む児童の育成
 - ・「子どもひまわり学習塾」の開催
 - ・木屋瀬中学校区小中一貫連携教育で作成した「家庭学習の手引き」(家庭学習の約束、家庭学習の目安時間等)の活用
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・冬休みや春休みの宿題に過去問題やアシストシートを活用
 - ・「家庭学習マイスター賞」への応募の啓発
 - ・各学年に応じた「自学ノート」の活用
- 学習や家庭生活習慣に関する調査結果を保護者へ周知
 - ・全国学力・学習状況調査の結果や課題を学級懇談会や各種便りで説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
 - ・生活実態アンケートの結果や課題に対する取組を懇談会や各種便りで保護者に説明し、協力体制を整える。